

I 実践

1 本校の人権教育実践の目標

差別や偏見によって起こる問題を自らの問題としてとらえ、一人一人が互いに人権尊重の心を持ち、差別や偏見をなくそうとする態度を育てる。

2 本校の人権教育における努力点

- (1) 人間としての生き方について自覚の向上を図る
 - ①一人一人が尊重される学級づくり
 - ②授業研究の推進
 - ③ボランティア活動の推進
- (2) 差別や偏見の問題を直視し、正しい判断力の育成に努める
 - ①自他のよさに気付かせる場の設定と言葉かけの工夫
 - ②差別や偏見に対する実態調査とその指導
 - ③人権コーナー設置による啓発

3 実践内容

(1) 人間としての生き方について自覚の向上を図る

- ① 一人一人が尊重される学級づくり
毎日級友の良い行いを賞賛し学級に掲示していくなど、生徒一人一人が所属感や自己有用感を感じる事のできる環境づくりを、各学級で工夫して行っている。
- ② 授業研究の推進
 - ア 各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間の授業において、協同的な活動を取り入れ、互いに認め合える人間関係を育んでいる。
 - イ 教科による人権意識の向上
 - 国語科：社会的差別を題材とした作品で、登場人物の心情を考え、差別や偏見をおかしいと思える感性を育んだ。
 - 社会科：公民的分野においては、人権の意味や、様々な人権課題の正しい理解を図った。また、歴史的分野でも同和問題や、アイヌの人々に対する偏見の歴史など、人権に関する問題の根深さを知り、正しい理解ができる指導に努めた。
- ③ ボランティア活動の推進
十王川の清掃活動や地域花壇の整備など、ボランティア活動を通して、地域の一員としての所属感や、地域協力の心を育んだ。

(2) 差別や偏見の問題を直視し、正しい判断力の育成に努める

- ① 自他のよさに気付かせる場の設定と言葉かけの工夫
 - ア あいさつ運動
毎学期の全校生徒参加のあいさつ運動に加え、今年度はあいさつを広めるための組織 TAG (Toyoura JHS aiming at the best Active Greeting in Japan) が発足した。
TAG 会員の生徒は、積極的なあいさつをしている生徒に認定カードを渡し、たくさんの会員に認められた生徒は新たな会員となる。あいさつの輪を広げ、明るい学校にしていくとともに、あいさつをがんばる生徒が認められる活動となっている。また、あいさつがしっかりできる部活動には認定証を発行し、全校集会で授与した。



図 1 TAG 認定証

イ メッセージカードの作成

学校行事で企画や準備を行った実行委員や、大会に臨む部活動の選手へ、全校生徒が感謝や励ましのメッセージを書き、廊下に掲示している。たくさんの感謝や励ましが、一年を通して見られる環境づくりを推進している。

ウ 賞賛状

本校では、家庭学習を1冊終えるごとに「努力を讃える賞賛状」が発行され、校長より表彰される。内容や時間、成績に関係なく、誰もが自分の努力を認められる機会となっている。また、思いやりのある行動を賞賛する「心を讃える賞賛状」を発行し、生徒を褒める場面を増やすよう工夫を実施している。

② 差別や偏見に対する実態調査とその指導

ア 携帯電話マナーアップ教室の実施計画

インターネット上の人権侵害を未然に防ぐため、携帯電話マナーアップ教室を2月に実施する。携帯電話通信業の講師派遣を活用し、事前のアンケート内容をもとに、実例などを交えた講演をお願いしている。全生徒に情報の正しい伝え方や情報を判断する力を身に付け、情報モラルの向上を図る。

イ 実態調査

毎学期、学校生活での悩みに関するアンケートをとり、生徒指導に活用している。また、5月と12月に生徒の自尊感情に関するアンケート調査を行った。「自己主張・自己決定」に関する項目が向上しており、様々な行事を通して生徒の成功体験を得させられたと確認することができた。

③ 人権コーナーの設置

人権コーナーを設置し、生徒の人権意識の啓発を図っている。



図2 人権コーナー

II 成果

- ・ TAGの取り組みを行ってきたことで、あいさつの広まりと認められる場の設定ができている。また、3年生が昇降口前でのあいさつに加えて1・2年生の部活の見送りを始めるなど、生徒同士が温かな声掛けを行う活動が見られた。
- ・ 総体や新人戦、体育祭が文化祭などの行事の度に、メッセージカードを掲示することにより、生徒同士が互いに励まし合いながら認め合う場となっている。
- ・ どの学級でも道徳や学活の時間において、いじめや友人関係についての授業を行い、思いやりのある人間関係の大切さについて考える場を設定し実践したことにより、いじめを許さない学校の雰囲気づくりができた。

III 今後の課題

生徒同士の適切な関わり合いの中で、他者を思いやる人権意識は高まっていくと考えられる。生徒が主体的に取り組むTAGの活動などをより活発に行きたい。また、教師の人権意識の向上、道徳の授業を中心とした学校教育全体で人権尊重の意識を高めていく実践など校内研修の充実を図っていく必要がある。